

電池用タブリッド材増産

仲代金属 新潟工場に設備導入

【新潟】仲代金属（東京都足立区、安中茂社長、03・3605・7730）は、新潟工場（新潟県阿賀野市）の電池用タブリッド材料の生産能力を、現在の2倍弱となる月間15ト規模に引き上げる。主な用途である車載電池向けの需要増に対応する。約2000万円を投じて生産設備を1台増加し、2倍に増強にした。現在試運転中で、2月に本稼働する。増産により安定供給を目指す。



タブリッド材料は、**1**に搭載する。電池のリチウムイオン電池な**1**機能性発揮に欠かせない部材。数ミリのレベルの幅に切った金属製の同材料を、長さ数百センチに巻き付けて納入する。

新潟工場に導入したのは、厚さ0.1ミリの4ミリの比較的厚めの金属部材をスリット加工する機械。これまで1台で生産能力を増強する新潟工場

生産能力は月間約8トだった。国際エネルギー機関が示した技術普及シナリオによると、燃料電池車（FCV）、電気自動車（EV）、プラグインハイブリッド車（PHV）、ハイブリッド車（HV）が乗用車販売台数に占める割合は2020年の15%から、40年には51%にまで伸長する見通し。材料に対する需要も伸びが予想される。

現在は本社工場のみで行われている電池向けの「中間切り工程」（大割り）を新潟工場

リット加工技術に加え、異物対策も必要となる。2工場化することで、さらなる安定供給体制を整備していく考えだ。

年月日	19	01	30	ページ	36	NO.	
-----	----	----	----	-----	----	-----	--